

## 仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅲ

平成27～令和2年度　震災復興民間文化財  
発掘調査助成事業に伴う発掘調査報告書

中在家南遺跡第8・9次

2021年3月

仙台市教育委員会







# 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

仙台市内には旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残っております。これらの一つ一つは、先人たちが残した貴重な文化遺産です。

平成23年3月11日の東日本大震災より10年が経ち、復興・創生期間5年目を迎えておりますが、個人住宅等の建築に伴う発掘届や発掘調査の件数は、平成23年度以降、震災前を上回る状況が継続しております。このようなか中、仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護と啓発に日々努めているところです。

本報告書は、震災後に創設された東日本大震災復興交付金により仙台市教育委員会が行った「震災復興民間文化財発掘調査助成事業」における発掘調査の成果をまとめた3冊目であり、本事業における最後の報告書となります。

本報告書には、平成27年度に発掘調査を実施した、中在家南遺跡第8・9次調査の調査結果を収録しています。

文化財は、地域の歴史を将来へ伝えるために守るべき大切な財産です。先人たちの残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちの使命であると思います。それは地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根底をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の刊行に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

令和3年3月

仙台市教育委員会  
教育長 佐々木 洋

## 例 言

1. 本書は、「東日本大震災復興特別区域法」に基づき仙台市が作成した「復興交付金事業計画」に対し復興庁が交付した「東日本大震災復興交付金」により平成27～令和2年度に仙台市教育委員会が行った「震災復興民間文化財発掘調査助成事業」による個人住宅および中小企業等の補助対象事業に伴う発掘調査報告書であり、平成27年度に実施した中在家南遺跡第8・9次の各発掘調査報告を合本にしたものである。
2. 本書の本文執筆および編集は調査担当者と協議の上、妹尾一樹が行い、挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担した。

遺物の基礎整理－斎野裕彦、柳澤権、妹尾一樹、向田文化財整理室作業員  
遺物図・構造図デジタルトレースー向田文化財整理室作業員  
遺構註記表作成ー向田文化財整理室作業員  
遺物写真撮影・図版作成ー向田文化財整理室作業員 遺構写真図版作成ー妹尾一樹
3. 本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 本文中の「～遺跡と周辺の遺跡」図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図を、また、「調査区位置図」などは仙台市発行の2千5百分の1都市基本図を、それぞれ修正して使用している。
2. 平面図中に示した方位は概ねの方位である。
3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は各調査別の通し番号である。

SR：自然流路
4. 遺物の略称は以下の通りである。

B：弥生土器 K：石器・石製品 O：自然遺物
5. 土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原1999）を使用した。
6. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

: 樹木
7. 遺物実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

: 黒色範囲
8. 遺物観察表の（ ）がついた数値は図上復元した推定値ないし残存値である。
9. 遺物写真の縮尺は遺物図版に掲載した同一個体のそれに準ずる。
10. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田1980）はこれまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰（To-a）」と考えられている。その降下年代は西暦915年と推定されている。

庄子貞雄・山田一郎 1980 「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城跡－昭和54年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡 第1～3次発掘調査』 仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史 2003 「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題－十和田aと白頭山（長白頭）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

# 目 次

第1章 調査計画と実績	1	
第1節 調査体制	1	
第2節 調査計画	2	
第3節 調査実績	2	
第2章 中在家南遺跡の調査	3	
第1節 遺跡の概要	3	
第2節 第8次調査	4	
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法	
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	
第3節 第9次調査	12	
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法	
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	
第4節 まとめ	17	
1. 出土遺物について	2. 河川跡について	3. まとめ
第3章 総括	29	

# 挿図目次

第1図 中在家南遺跡と周辺の遺跡	3	第11図 第9次調査区配置図	12
第2図 中在家南遺跡調査区位置図	4	第12図 第9次調査区平面図	13
第3図 第8次調査区配置図	4	第13図 第9次調査区断面図	14
第4図 第8次調査区平面図	5	第14図 SR1 河川跡出土遺物（1）	15
第5図 第8次調査区断面図	6	第15図 SR1 河川跡出土遺物（2）	16
第6図 SR1 河川跡出土遺物（1）	7	第16図 弥生土器集成図	18
第7図 SR1 河川跡出土遺物（2）	8	第17図 河川跡推定図	19
第8図 SR1 河川跡出土遺物（3）	9	第18図 震災復興交付金調査地点位置図 （国土地理院地図を一部改変）	32
第9図 SR1 河川跡出土遺物（4）	10		
第10図 SR1 河川跡出土遺物（5）	11		

## 挿表目次

表 1 平成 27 年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧	2
表 2 平成 28 年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧	2
表 3 平成 29 年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧	2
表 4 令和元年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧	2
表 5 令和 2 年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧	2
表 6 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧（1）・（2）	30・31
表 7 中小企業等補助事業に伴う発掘調査一覧	31

## 写真図版目次

写真図版 1 中在家南遺跡第 8 次調査（1）	21
写真図版 2 中在家南遺跡第 8 次調査（2）	22
写真図版 3 中在家南遺跡第 8 次調査出土遺物（1）	23
写真図版 4 中在家南遺跡第 8 次調査出土遺物（2）	24
写真図版 5 中在家南遺跡第 8 次調査出土遺物（3）	25
写真図版 6 中在家南遺跡第 9 次調査（1）	26
写真図版 7 中在家南遺跡第 9 次調査（2）	27
写真図版 8 中在家南遺跡第 9 次調査出土遺物	28

## 第1章 調査計画と実績

### 第1節 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育生涯学習部文化財課

#### 平成27年度

【文化財課】課長 長島栄一

【調査調整係】係長 荒井格 主査 平間亮輔 主任 鈴木隆 主事 庄子裕美 五十嵐愛 小林航  
文化財教諭 早坂純一 吉田真太郎 笹原淳 佐藤慶一 専門員 佐藤洋

【整備活用係】係長 斎野裕彦 主任 斎藤克巳 主事 及川謙作

文化財教諭 千葉靖彦 小山紘明 高橋和也 専門員 木村浩二

#### 平成28年度

【文化財課】課長 長島栄一

【調査調整係】係長 荒井格 主査 平間亮輔 主任 鈴木隆 主事 及川謙作 庄子裕美 高橋純平 小林航  
文化財教諭 吉田真太郎 笹原淳 佐藤慶一 及川基 専門員 佐藤洋

【整備活用係】係長 斎野裕彦 主任 小野寺啓次 主事 五十嵐愛

文化財教諭 小山紘明 高橋和也 千葉昂太 専門員 木村浩二

#### 平成29年度

【文化財課】課長 長島栄一

【調査調整係】係長 平間亮輔 主任 鈴木隆

主事 及川謙作 庄子裕美 小林航 三浦一樹 妹尾一樹 柳澤楓

文化財教諭 大友涉 笹原淳 佐藤慶一 及川基 専門員 佐藤洋 渡部弘美

【整備活用係】係長 佐藤淳 主任 稲垣正志 小野寺啓次 主事 五十嵐愛

文化財教諭 三浦昂也 小山紘明 高橋和也

#### 平成30年度

【文化財課】課長 長島栄一

【調査調整係】係長 平間亮輔 主任 及川謙作 主事 小林航 三浦一樹 妹尾一樹 柳澤楓

文化財教諭 大友涉 栗和田祥郎 佐藤文征 尾形隆寛 及川基 専門員 渡部弘美 斎野裕彦

【整備活用係】係長 佐藤淳 主任 稲垣正志 小野寺啓次 主事 庄子裕美 五十嵐愛

文化財教諭 斎藤健一 三浦昂也

#### 令和元年度

【文化財課】課長 長島栄一

【調査調整係】係長 平間亮輔 主任 及川謙作 主事 妹尾一樹 相川ひとみ 佐藤恒介 柳澤楓 木村恒

文化財教諭 元山祐一 大友涉 栗和田祥郎 尾形隆寛 専門員 斎野裕彦

【整備活用係】係長 佐藤淳 主任 高橋敬子 小野寺啓次 主事 庄子裕美 五十嵐愛

文化財教諭 斎藤健一 三浦昂也 佐藤文征 専門員 渡部弘美

## 第1節 調査体制

### 令和2年度

【文化財課】 課長 長島栄一

【調査調整係】 係長 平間亮輔 主査 近藤勇亮 栗和田祥郎 主任 及川謙作 小浦真彦 尾形隆寛  
主事 澤目雄大 妹尾一樹 相川ひとみ 柳澤楓 木村恒 専門員 斎野裕彦

会計年度任用職員 篠原信彦

【整備活用係】 係長 工藤慶次郎 主査 元山祐一 総括主任 高橋勝枝 主任 堀越研 佐藤文征  
主事 庄子裕美 五十嵐愛

## 第2節 調査計画

震災復興民間文化財発掘調査助成事業（個人住宅・中小企業等補助事業）を、仙台市域を対象として平成27～令和2年度に行なった。各年度の事業費は以下の通りである。

平成27年度は総額9,006千円（このうち補助金額6,754千円）、平成28年度は総額4,395千円（このうち補助金額3,296千円）、平成29年度は総額4,490千円（このうち補助金額3,368千円）、平成30年度は総額4,400千円（このうち補助金額3,300千円）、令和元年度は総額6,805千円（このうち補助金額5,103千円）で実施し、令和2年度は総額8,295千円（このうち補助金額6,221千円）の各予算で計画した。

## 第3節 調査実績

平成27年度から令和2年度（平成27年4月～令和3年3月）にかけて実施した調査は表1～4の通りで、平成27年度が5件、平成28年度が4件、平成29年度が1件、平成30年度が0件、令和元年度が1件、令和2年度が1件の合計11件である。いずれも個人住宅に伴う調査であり、中小企業等補助事業に伴う調査は0件であった。このうち平成27年度に実施した2件を本書に収録した。

表1 平成27年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧

調査№	道跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
1	中在家南遺跡	若林区荒井西区面整理地	85.25	25	2015年4月6日～4月24日	円筒跡・卵生土器・石器	H26 106～469	第8次調査
2	中在家南遺跡	若林区荒井西区面整理地	83.82	36	2015年5月18日～28日	円筒跡・卵生土器	H27 101～961	第9次調査
3	安久東遺跡	太白区西中田1丁目	153.78	12	2015年10月19日	遺構・遺物なし	H27 101～328	—
4	六反田遺跡	太白区大野田字五反田	50.56	12	2015年12月2日	小窓・ピット	H27 101～478	—
5	今泉遺跡	若林区今泉2丁目	64.5	12	2016年2月1日	円筒跡	H27 101～491	—

表2 平成28年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧

調査№	道跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
1	富沢古跡	太白区宮町南4丁目	202.7	24.2	2016年5月30日～31日	遺構なし・遺物なし	H28 101～041	—
2	大野田古墳群	太白区大野田5丁目	93.98	16	2016年9月26日	小窓・ピット・土師器	H28 101～368	—
3	涌ノ頭遺跡	宮城野区岩切字涌南	75.77	15	2017年2月20日	遺構・遺物なし	H28 101～684	—
4	岡ノ口遺跡	宮城野区岩切字岡ノ口	41	6.2	2017年3月15日	井戸跡	H28 101～769	—

表3 平成29年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧

調査№	道跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
1	鶴出根敷き道跡	太白区喜代駒西区面整理地	67.1	12	2017年12月14日	遺構・遺物なし	H29 102～451	—

表4 令和元年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧

調査№	道跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
1	富沢古跡	太白区喜代駒西区面整理地	70.2	10	2019年8月20日	遺構・遺物なし	H30 101～152	—

表5 令和2年度 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧

調査№	道跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
1	柏山遺跡	太白区郡山2丁目	154.1	27.9	2021年3月9日～10日	遺構・遺物なし	H32 101～402	—

## 第2章 中在家南遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

中在家南遺跡は、仙台市若林区荒井字中在家、字礼屋敷等に所在し、JR仙台駅の南東約5kmに位置する。現海岸線から約5.5km内陸側の自然堤防から後背湿地にかけて立地し、遺跡の範囲は東西約490m、南北約200mで、標高は約5mである。

本遺跡は昭和63年に土地区画整理に伴う事前調査で発見され、これまでに12次にわたる調査が実施されている。その結果、弥生時代中期中葉の土器棺墓と土壙墓で構成される墓域や遺物包含層、古墳時代の方形周溝墓群や堅穴住居跡、平安時代の堅穴住居跡、中世と近世の水田跡などが検出されている。さらに自然堤防の南側では幅約20m、深さ約2.5mの河川跡が確認されており、河川跡からは弥生時代中期と古墳時代前期～中期を中心とした大量の土器や石器とともに農具・工具を中心とした木製品や骨角器など多種多様な遺物が出土している。特に弥生時代の木製品には未成品も多く、製作過程を確認することができ、これら出土遺物は弥生時代以来の生活史を復元する上できわめて貴重な考古資料として、平成14年度に仙台市有形文化財に指定されている。

遺跡周辺では、荒井南遺跡や杏形遺跡で弥生時代中期の大規模な水田跡が確認され、押口遺跡や荒井広瀬遺跡では河川跡から弥生時代の遺物が出土しており、遺跡周辺に弥生時代中期の集落が広がっていたことが推察される。また、杏形遺跡で確認された水田跡は約2000年前の津波堆積物により覆われており、これをもたらした自然災害により廃絶したことが明らかになっている。荒井南遺跡でも同様の津波堆積物が確認された他、荒井広瀬遺跡ではこの地震に伴うと考えられる地割れ跡が検出されており、周辺で数多く確認された遺跡は、約2000年前の自然災害によりその後、しばらく確認されなくなる。遺跡周辺で再び遺物や遺構が確認されるのは古墳時代前期になってからであり、本遺跡の方形周溝墓群のほか、杏形遺跡では水田跡が確認されている。



番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	中在家南遺跡	墓、水田、河川跡	自然堤防、後背湿地	弥生～近世	7	荒井南遺跡	水田、散布地	後背湿地	弥生～中世
2	中在家南跡	散布地	自然堤防	平安	8	荒井中遺跡	散布地	自然堤防	古墳～中世
3	仙台東零条塚跡	塚	自然堤防	古代	9	荒井中東遺跡	台地地	自然堤防	弥生、古墳
4	高麗敷跡	散布地	自然堤防	古墳～古代	10	下荒井遺跡	散布地	自然堤防	平安
5	長喜城跡	城郭跡	自然堤防	中世	11	荒井広瀬遺跡	河川跡	後背湿地	弥生～古墳
6	押口遺跡	水田、包含地	自然堤防、後背湿地	弥生～近世	12	杏形遺跡	水田	自然堤防	弥生～中世
					13	南小糸遺跡	用石、集落	自然堤防	弥生～近世

第1図 中在家南遺跡と周辺の遺跡

## 第2節 第8次調査

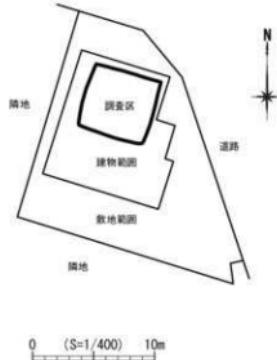


第2図 中在家南遺跡調査区位置図

## 第2節 第8次調査

### 1. 調査要項

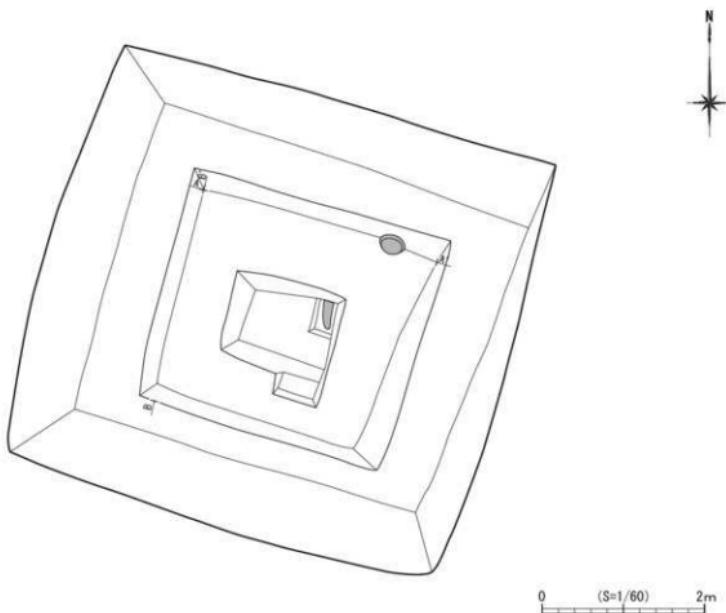
- 遺 跡 名 中在家南遺跡（宮城県遺跡登録番号 01427）  
調 査 地 点 仙台市若林区なないろの里二丁目3番地の4  
(仙台市若林区荒井西土地区画整理地内 29B-4L)  
調 査 期 間 平成27年4月9日～4月24日  
調査対象面積 239.67 m<sup>2</sup>  
調 査 面 積 18 m<sup>2</sup>  
調 査 原 因 個人住宅建築工事  
調 査 主 体 仙台市教育委員会  
調 査 担 当 仙台市文化財課調査調整係  
担 当 職 員 主事 庄子裕美 小林 航  
文化財教諭 笹原惇 吉田真太郎 佐藤慶一



第3図 第8次調査区配置図

### 2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成27年3月11日付H27教生文第106-469号で通知）に基づき実施した。調査は平成27年4月9日に着手した。建築範囲内に東西5m、南北5mの調査区を設定し、重機により厚さ約1mの盛土を除去したところ、基本層I層を検出した。その後、安全面を考慮し、調査区の掘削範囲を3m×3mに縮小し、重機および人力にて掘削を行ったところ、地表面から約1.3mの深度



第4図 第8次調査区平面図

で河川堆積土を確認した。さらに地表面から2mの深さで調査区を1m×1mの規模に縮小し、最大で地表面より3mの深さまで掘削を行った。

調査では必要に応じて、調査区平面図(S=1/40)、調査区壁面断面図(S=1/20)を作製し、記録写真的撮影はデジタルカメラにて行った。記録作業終了後、重機により埋め戻しを行い、調査を終了した。

### 3. 基本層序

第8次調査では厚さ約1mの盛土の直下で、基本層が3層確認された。

I 層：10YR4/3にぶい黄褐色粘土。下面では凹凸が認められ、造成前の水田耕作土と考えられる。

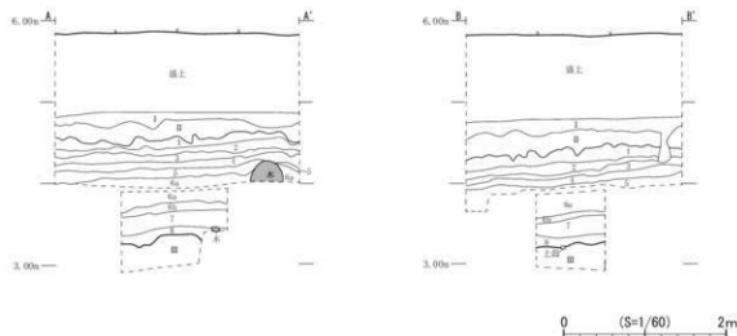
層厚は10～20cmである。

II 層：10YR2/1 黒色粘土。灰白色シルトブロックを微量に含む。下面では凹凸が認められ、水田耕作土と推定される。層厚は8～32cmである。

III 層：2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土。砂を均質に含み、層下部になるにつれ砂層に移行する。しまりが強く、基盤層と考えられる。層厚39cm以上。

### 4. 発見遺構と出土遺物

調査では河川跡が検出された。遺物はSR1河川跡の堆積土中から弥生土器や石器、動物骨等が出土している。



第5図 第8次調査区断面図

### (1) 河川跡

### SR1 河川跡（第4・5図）

調査区全体が河川跡の内部に入っている。検出面から約1.2mの深さまで掘り下がった所、河床面と考えられるIII層上面を検出した。堆積土全体が南西方向に向けて下がっていることから、北西—南東方向の河川跡の北東岸側に位置すると考えられる。堆積土は8層、細別9層に分層され、いざれも植物遺存体を含み、互層状堆積が認められることから、自然堆積層と推定される。また、堆積土の類似性や位置関係から、過去の調査で検出されている河川跡と同一の河川跡と推定される。

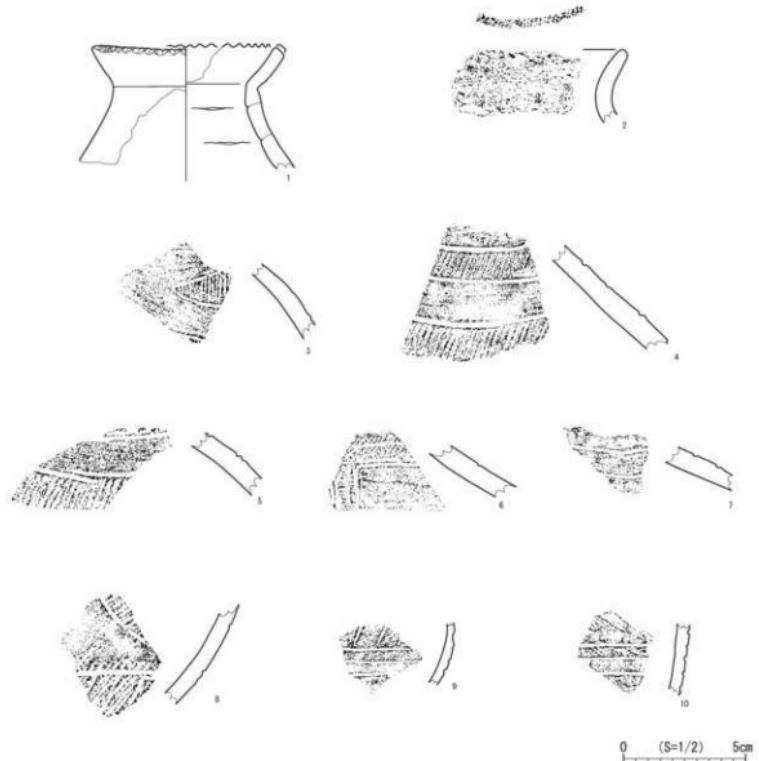
### 出土遺物（第6～11図）

遺物は6～8層から弥生土器、石器、動物骨が出土している。出土状況は6a層から弥生土器片が2点と骨片、6b層から弥生土器片が約20点、7層から弥生土器片が約210点、8層から弥生土器片が約220点と石器4点と骨片が出土しており、7～8層に集中する。このうち弥生土器55点、磨石1点が発見された（第6～11図）。

弥生土器の多くは破片資料であるが、器種が判明するものは 56 点出土しており、壺 11 点、鉢 13 点、高坏 2 点、蓋 8 点、甕 20 点、深鉢 2 点である。各器種の概要については以下の通りである。

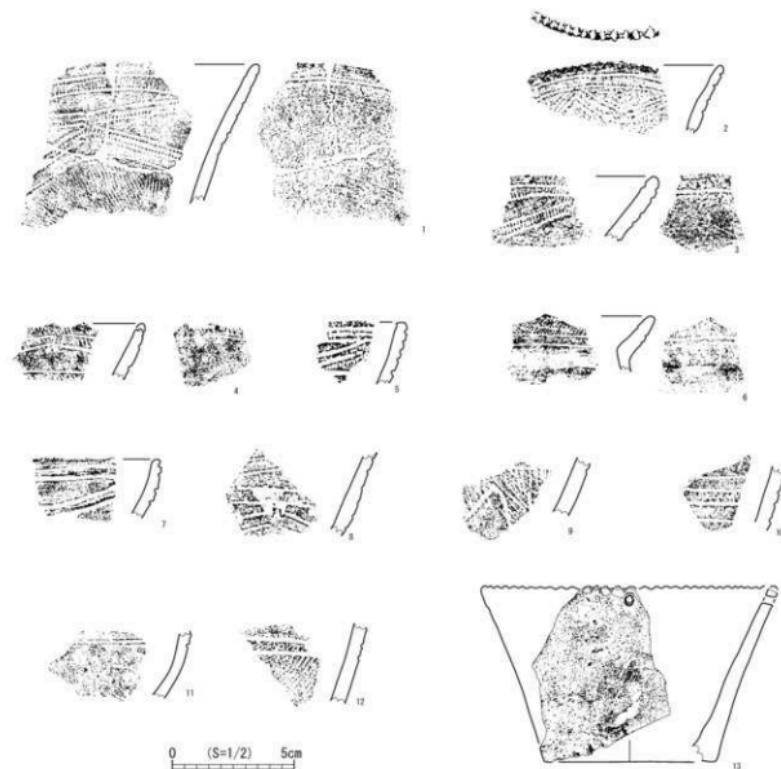
帝(第6回)

11点認められ、このうち口縁部が2点、体部が9点である。文様は鑑形文（3）、四角文（6）、幾何学文（9、10）、同心円文（写真図版3-11）、平行弦線文（7）が認められ、外面には繩文、植物茎回転文による施文の他、ミガキ調整がみられる。1は細口の頸部を持ち、口縁部は内傾気味の頸部から強く外傾する。口唇部には棒状工具により刻みが施される。3は横向きに展开する鑑形文の先端部と考えられ、主線内には赤彩が施される。8は沈線により曲線が描かれており、満文が同心円文が施されると考えられる。



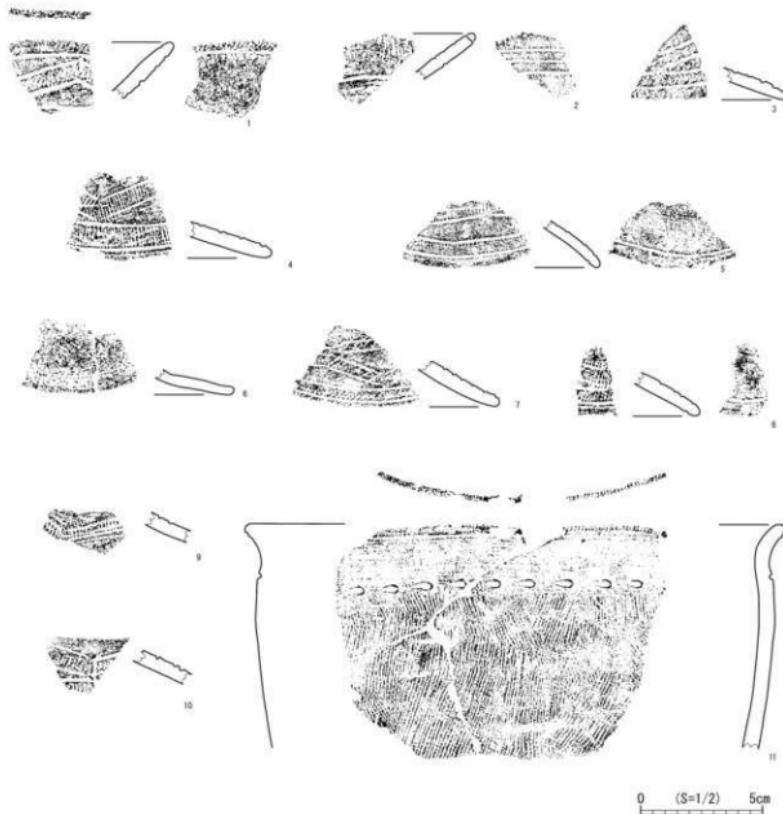
面版 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	基機	法量(cm)			外面	内面	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	B-13	SR1	8	弥生土器	盃	7.6	-	(5.1)	ナデ→ミガキ	口：ミガキ　縁：ナデ		3-1
2	B-12	SR1	7	弥生土器	盃	-	-	(3.0)	ナデ→ミガキ	ミガキ	口幅：1.8	3-2
3	B-17	SR1	8	弥生土器	盃	-	-	(3.0)	織目文（横のき 織物裏面文 在筋）	ナデ→ミガキ		3-3
4	B-16	SR1	8	弥生土器	盃	-	-	(4.3)	織目文（植物葉状文）	ミガキ		3-4
5	B-17	SR1	7	弥生土器	盃	-	-	(2.9)	織目文（植物葉状文）	ミガキ	外面スス付着	3-5
6	B-16	SR1	7	弥生土器	盃	-	-	(2.1)	織目文共文（付加条1B# 土器内文）	ミガキ		3-6
7	B-18	SR1	8	弥生土器	盃	-	-	(1.8)	織目平行沈継文	ナデ→ミガキ		3-7
8	B-14	SR1	7	弥生土器	盃	-	-	(3.1)	織目文（付加条8多条 83条）	ナデ→ミガキ	同心円文か織文	3-8
9	B-9	SR1	7	弥生土器	盃	-	-	(2.5)	織目幾何学文（付加条8多条 83条）	ナデ	内外面スス付着	3-9
10	B-2	SR1	6b	弥生土器	盃	-	-	(2.9)	織目幾何学文（付加条1B-8）	ナデ		3-10
-	B-18	SR1	7	弥生土器	盃	-	-	(2.6)	織目同心円文（付加条1B-8）	不明	外表面スス付着　器面摩耗	3-11

第6図 SR1河川跡出土遺物（1）



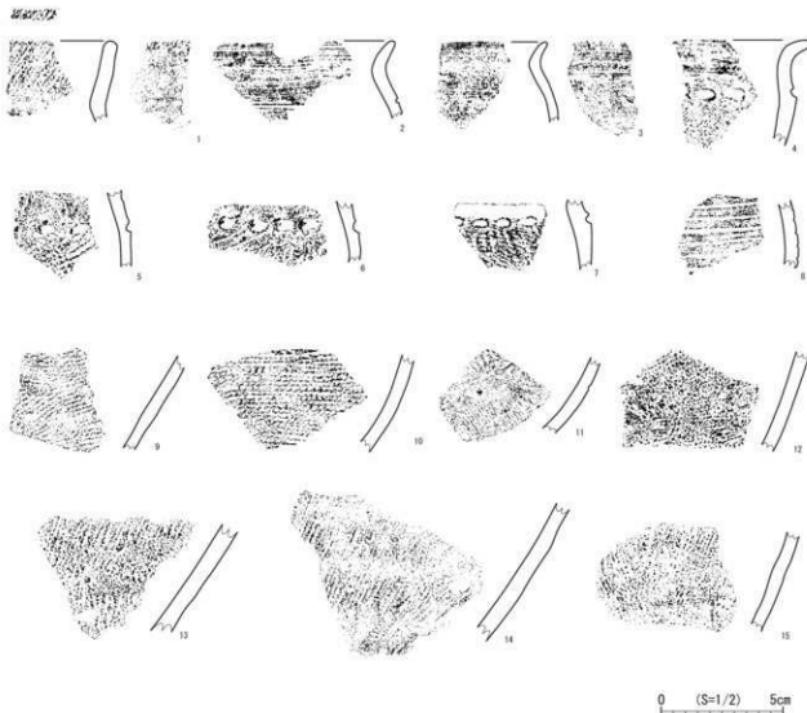
図版 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	基壇	法量(cm)			外面	内面	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	B-29	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(5.7)	磨削変形工字文(植物葉形輪文 主面内 凹部・余部)	横丸波瀬文 ナデ→ミ ガキ		3-12
2	B-31	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(2.7)	磨削変形文(獣名和)	ナデ	口唇:キザミ目	3-13
3	B-40	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(2.7)	磨削変形工字文(植物葉形輪文 主面内凹 部・余部)	横丸波瀬文 ナデ→ミ ガキ		3-14
4	B-7	SR1	7	弥生土器	鉢	~	~	(1.5)	磨削変形工字文(主面内凹文)	口縁:朱刷起 伏	口縁に朱刷起 伏	3-15
5	B-28	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(2.6)	磨削変形工字文(植物葉形輪文 余部)	縦面剥落		3-16
6	B-45	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(2.6)	磨削凹(18度文 直下に平行)波瀬文	横丸波瀬文・底頂部が うねり状波瀬	波瀬口縁	3-17
7	B-30	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(2.4)	磨削変形工字文(植物葉形輪文 主面内 凹部)	ナデ→ミガキ		3-18
8	B-5	SR1	7	弥生土器	鉢	~	~	(3.4)	磨削変形工字文(植物葉形輪文 主面内凹 部)	ミガキ	内面は黒色を見る	3-19
9	B-15	SR1	7	弥生土器	鉢	~	~	(2.0)	磨削変形工字文(付加溝)主面内凹文(縫 合の可能性)	ミガキ		3-20
10	B-10	SR1	7	弥生土器	鉢	~	~	(2.7)	磨削平行直溝文(波瀬文 0.8)	ミガキ		3-21
11	B-34	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(2.7)	横位平行直溝文	ミガキ		3-22
12	B-35	SR1	8	弥生土器	鉢	~	~	(3.3)	縫合直溝1条 平行波瀬文(波瀬波多条 0.2 余分)	ナデ→ミガキ		3-23
13	B-42	SR1	8	弥生土器	鉢	~	(7.1)	(7.2)	ナデ	ナデ	口唇:キザミ目 口唇間に貫通孔 1ヶ所	4-1

第7図 SR1河川跡出土遺物（2）



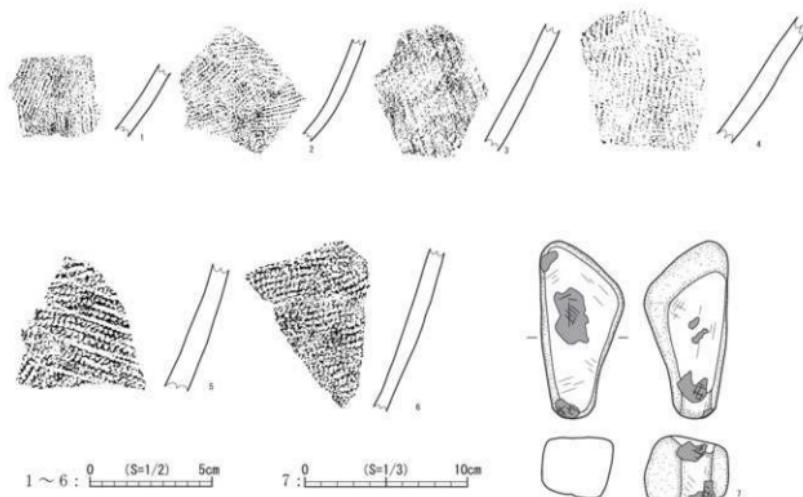
実物 番号	骨器 番号	出土 遺構	部位	種別	基準	法量 (cm)			外観	内面	備考	写真 番号
						口径	底径	厚さ				
1	B-1	SB1	6a	有生土器	直坪	-	-	(2.3)	磨滅変形工字文(口縁内地文)	口縁直下(口縁内地文)一側 底内側に1条 口:「く」ガ リ		4-2
2	B-33	SB1	8	有生土器	直坪	-	-	(2.0)	磨滅変形工字文(口縁内地文)	横位平行直溝文	小突起あり 小斜板間に内面にキ ズ(凹み)	4-3
3	B-6	SB1	7	有生土器	直	-	-	(1.3)	磨滅変形工字文(口縁内地文)	「カ」ガ	内面は黒色を呈する	4-4
4	B-29	SB1	8	有生土器	直	-	-	(1.5)	磨滅変形工字文(植物茎回転文 主面内 地文 茎部)	「カ」ガリ スス付着		4-5
5	B-38	SB1	8	有生土器	直	-	-	(1.9)	磨滅変形工字文(植物茎回転文 主面内地 文 茎部)	横位直溝文 ナデ→「 」ガリ		4-6
6	B-11	SB1	7	有生土器	直	-	-	(1.0)	磨滅変形工字文	「カ」ガリ	内外面黒色を呈する	4-7
7	B-37	SB1	8	有生土器	直	-	-	(1.8)	磨滅変形工字文(植物茎回転文 主面内地 文 茎部)	「カ」ガ		4-8
8	B-41a	SB1	8	有生土器	直	-	-	(1.8)	磨滅変形工字文(植物茎回転文 主面内地 文 茎部)	横位直溝文 ナデ→「 」ガリ		4-9
9	B-41b	SB1	8	有生土器	直	-	-	(1.2)	磨滅変形工字文(植物茎回転文 主面内地 文 茎部)	横位直溝文 ナデ→「 」ガリ		4-10
10	B-32	SB1	8	有生土器	直	-	-	(1.0)	磨滅変形工字文(植物茎回転文 主面内地 文 茎部)	ナデ→「カ」ガリ スス付 着		4-11
11	B-50	SB1	8	有生土器	直	-	-	(9.2)	口:ヨコナデ→凸点斜溝文 例:植物茎回転 文	「カ」ガリ 体:スス付着 口部:植物茎回転文		4-12

第8図 SR1河川跡出土遺物（3）



形態 番号	標 記 番 号	出 土 場 所	層 位	種 別	基 礎	測量(cm)			外 面	内 面	備 考	写 真 版
						口 徑	底 径	器 高				
1	B-13	SR1	7	陶生土器	深鉢	-	-	(3.3)	口付加条(直前段多条:30組)	口付下:口付突起(外 面と同一原体)	口付(外面と同一原体)	4-13
2	B-14	SR1	8	陶生土器	甌	-	-	(3.2)	横段平行沈撇文	ナゲー <sup>ト</sup> ガ年	ナゲー <sup>ト</sup> ガ年	4-14
3	B-19	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(3.0)	口~体:ヨコテグ	ナゲー <sup>ト</sup> ガ年	ナゲー <sup>ト</sup> ガ年	4-15
4	B-51	SR1	8	陶生土器	甌	-	-	(4.0)	口:ヨロナギ~列点網突文 体:口E(直前段多条:83 条)	ミガ年	口付江E(直前段多条:83 条)	4-16
5	B-21	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(3.1)	口:ヨコテグ~列点網突文 体:口E(直 前段多条:83 条)	ナゲ	ナゲ	4-17
6	B-22	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(2.5)	口:ヨロナギ~列点網突文 体:付加条 (E+R)	ミガ年	ミガ年	4-18
7	B-29	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(2.9)	口:ヨロナギ~列点網突文 体:口E	ミガ年	ミガ年	4-19
8	B-55	SR1	8	陶生土器	深鉢	-	-	(2.8)	横段平行沈撇文	ミガ年	ミガ年	5-1
9	B-3	SR1	6b	陶生土器	甌	-	-	(3.0)	LB	ミガ年	ミガ年	5-2
10	B-25	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(3.0)	熱帯文E	ミガ年	ミガ年	5-3
11	B-36	SR1	8	陶生土器	甌	-	-	(3.1)	LB(直前段多条:83 条)	ミガ年	ミガ年	5-4
12	B-27	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(4.1)	熱帯文 2R	ナゲ	ナゲ	5-5
13	B-54	SR1	8	陶生土器	甌	-	-	(4.4)	付加条 (E+R)	ミガ年	ミガ年	5-6
14	B-52	SR1	8	陶生土器	甌	-	-	(5.7)	植物茎回転文	ミガ年	ミガ年	5-7
15	B-8	SR1	7	陶生土器	甌	-	-	(4.1)	植物茎回転文	ナゲ	ナゲ	5-8

第9図 SR1河川跡出土遺物（4）



図版 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	基準	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
1	B-4	SR1	6b	弥生土器	便	-	-	(2.9)	植物茎回転文	ミガキ		5-9
2	B-26	SR1	7	弥生土器	便	-	-	(4.1)	LR (直前段多条: 83 条)	ナゲ		5-10
3	B-49	SR1	8	弥生土器	便	-	-	(5.2)	ハケメ	ナゲ→ミガキ		5-11
4	B-53	SR1	8	弥生土器	便	-	-	(5.2)	LR (直前段多条: 83 条)	ミガキ		5-12
5	B-23	SR1	7	弥生土器	便	-	-	(6.6)	LR (直前段多条: 83 条)	ミガキ		5-13
6	B-24	SR1	7	弥生土器	便	-	-	(6.6)	LR (直前段多条: 83 条)	ナゲ		5-14

図版 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	基準	法量 (cm)			備考	写真 図版
						長さ	幅	高さ		
7	K-1	SR1	7	繩石器	磨石	11.0	5.1	3.8	全体的に削面あり 長さ 308g	5-15
-	O-1	SR1	8	自然遺物	骨	6.7 ~ 8.2	0.5 ~ 2.5	-	4 点 長さ 10.1g	5-16

第10図 SR1 河川跡出土遺物（5）

## 鉢（第7図）

13点認められる。このうち口縁部片が7点、体部片が5点、ほぼ完形に復元できるものが1点である。口縁部形態は屈曲を持たず、緩やかに外傾ないし、内湾するものが多数認められ、口縁部付近が屈曲するもの（6）は1点のみ確認された。文様は変形工字文（1, 3～5, 7, 8）、幾何学文（9）、連弧文（2）、平行沈線文（10～12）、無文（13）が認められるが、変形工字文が主体をなす。外面には縄文、植物茎回転文による施文の他、ナゲ調整がみられる。1、3、5はいずれも変形工字文が施され、地文部には赤彩が施される。

## 高坏（第8図1～2）

2点認められる。いずれも口縁部片である。文様は変形工字文（1）が認められ、外面には縄文が認められる。小片のため、詳細な器形は不明である。

### 第3節 第9次調査

#### 蓋（第8図3～10）

8点が認められ、端部片が6点、体部片が2点である。文様はいずれも変形工字文（3～5、7～10）である。外面には縄文、植物茎回転文による施文がみられる。4、5、7～9に赤彩が認められ、他の器種と比べ、赤彩の施される割合が高い傾向にある。また、8と9は同一個体と考えられる。

#### 壺（第8図11、第9図2～7・9～15、第10図1～6）

20点認められ、口縁部片が4点、体部片が16点である。文様は列点刺突文（第8図11、第9図5～7）や沈線文（第9図2、8）が認められ、外面には縄文や植物茎回転文による施文の他、ハケメ調整のものが認められる。

#### 深鉢（第9図1・8）

2点認められ、口縁部片が1点、体部片が1点である。文様は平行沈線文（第9図8）が認められ、外面調整は縄文が施文される。

石器は剥片が3点、磨石が1点出土している（第10図7）。磨石は磨面において、部分的に黒色を呈する範囲が認められる。このほか、動物骨が出土したが（写真図版5-16）、小片のため詳細は不明である。

## 第3節 第9次調査

### 1. 調査要項

遺跡名	中在家南遺跡（宮城県遺跡登録番号01427）
調査地点	仙台市若林区なないろの里二丁目3番地の18 (仙台市若林区荒井西土地区画整理地内 29B-4L)
調査期間	平成27年5月18日～5月28日
調査対象面積	201.82 m <sup>2</sup>
調査面積	36 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市文化財課調査調整係
担当職員	主事 庄子裕美 文化財教諭 笹原惇 佐藤慶一



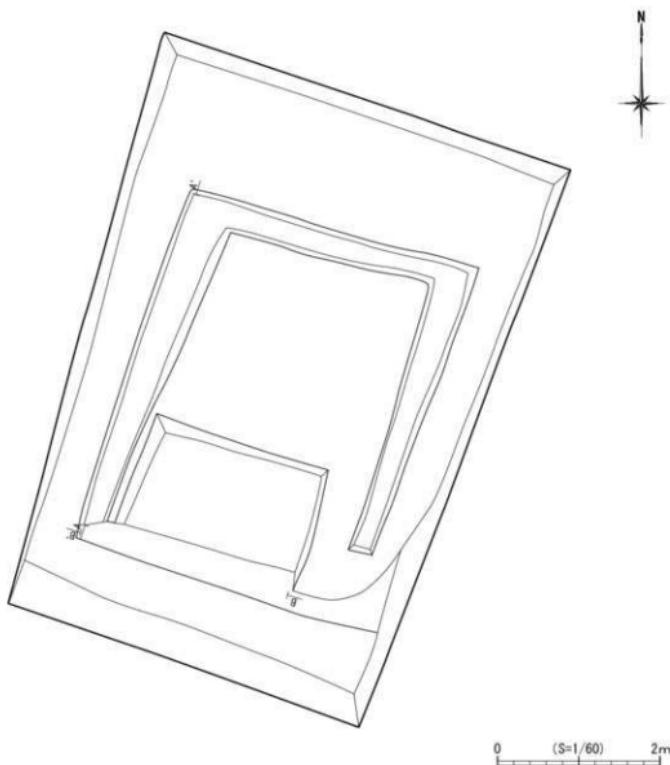
第11図 第9次調査区配置図

### 2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成27年4月23日付H27教生文第101-61号で通知）に基づき実施した。調査は平成27年5月18日に着手した。建築範囲内に南北7.2m、東西5mの調査区を設定し、重機により厚さ約1.1mの盛土を除去したところ、基本層I層を検出した。その後、安全面を考慮し、調査区の掘削範囲を東西3.5m、南北4.5mに縮小し、そこから重機および人力にて掘削を行ったところ、地表面から約1.3～1.5mの深度で河川堆積土を確認した。さらに地表面から2mの深さで調査区を東西2.3m、南北1.4mの規模に縮小し、最大で地表面より2.5mの深さまで掘削を行ったところ、河川跡の南北側壁面を確認した。

調査では必要に応じて、調査区平面図（S=1/40）、調査区西壁・南壁断面図（S=1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

記録作業終了後、掘り上げた河川跡堆積土はすべて場外へ搬出し、埋め戻しは重機と振動ローラーを用い、碎石



第12図 第9次調査区平面図

を複数回締め固めを行いながら埋め戻し、すべての調査を終了した。

### 3. 基本層序

第9次調査では厚さ約1.1mの盛土の下で基本層が3層確認された。

I 層：10YR3/1 黒褐色粘土。酸化鉄班を多量に含む。造成前の水田耕作土である。層厚は0～42cm。

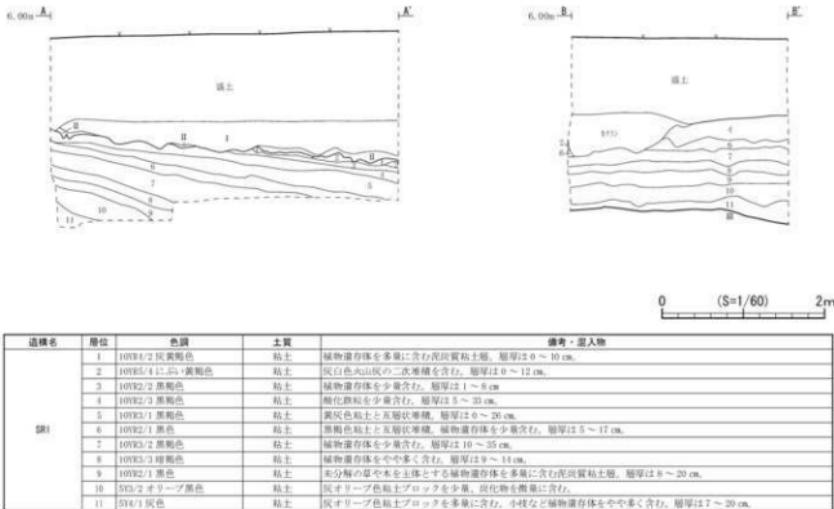
II 層：10YR2/1 黒色粘土。SR1河川跡の2層に由来する灰白色シルトブロックを多く含む。下面では凹凸が確認される。層厚は0～15cm。

III 層：2.5GY5/1 オリーブ灰粘土。砂を含む。しまりが強く、基盤層と考えられる。

### 4. 発見遺構と出土遺物

調査では河川跡が検出された。遺物は基本層から土師器片が、SR1河川跡の堆積土中から弥生土器や石器が出土している。

### 第3節 第9次調査



第13図 第9次調査区断面図

#### (1) 河川跡

##### SR1 河川跡 (第12・13図)

調査区全体が河川跡の内部に入っている。検出面から1.2mの深さまで掘り下がったが、河床面は確認されず、安全面を考慮して完掘は行わなかった。堆積土全体が北方に向けて下がっているため、東西方向の河川跡と推定され、河川の南岸側に位置するとみられる。また南東部では河川の壁面の一部が確認された。堆積土は11層に分層される。いずれも自然堆積土と考えられ、植物遺存体を含む。11層の下面近くでは樹皮の集積を検出した。複数の樹皮が1カ所に折り重なっていたが、樹皮には加工痕は認められなかった。堆積土の類似性や位置関係から、過去の調査区で検出されている河川跡と同一の河川跡と推定される。

##### 出土遺物 (第14・15図)

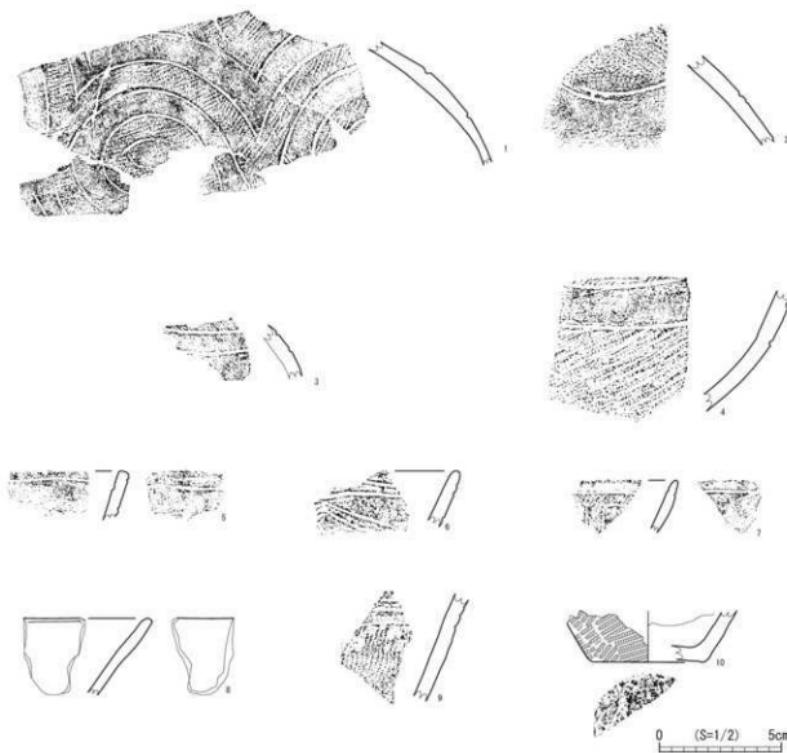
遺物は7～11層から弥生土器、石器が出土している。出土状況は7層から弥生土器片が約40点、8層から弥生土器片が約50点と石器が1点、11層から弥生土器片が7点出土しており、主に7～8層から出土している。このうち弥生土器19点が図化できた(第14・15図)。弥生土器はすべて破片資料であるが、器種が判明するものが19点出土しており、壺4点、鉢6点、甕6点、深鉢3点である。各器種の概要については以下の通りである。

##### 壺 (第14図1～4)

4点認められ、いずれも体部片である。文様は溝文が認められ(1～2)、外面には繩文による施文がみられる。3と4は沈線による曲線が引かれており、溝文ないし同心円文が施されると考えられる。また、4の地文部には赤彩が横位に帶状に施される。

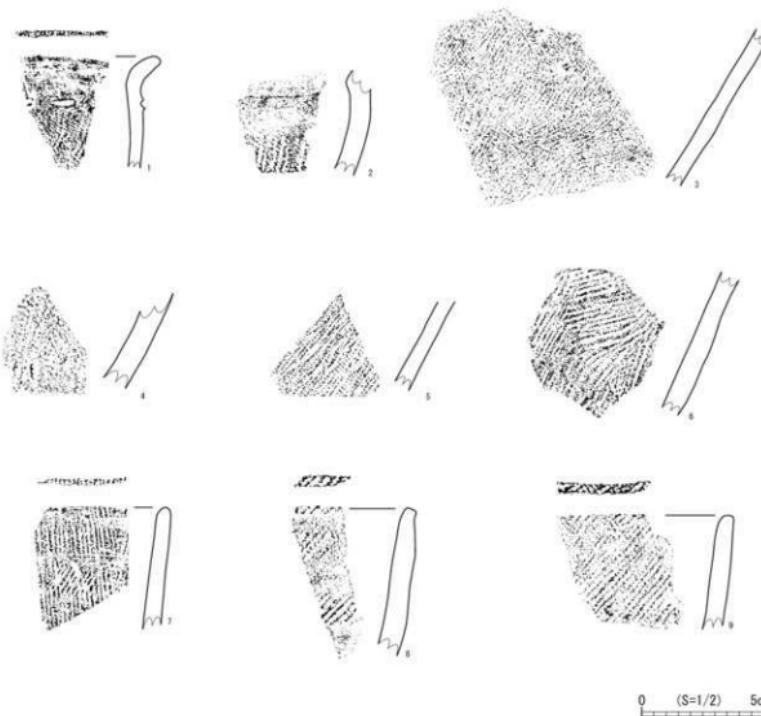
##### 鉢 (第14図5～10)

6点認められる。このうち口縁部片が4点、体部片が1点、底部が1点である。文様は変形工字文(5,6)、四角文(7)、平行沈線文(9)、無文(8)が認められ、外面には繩文による施文の他、ミガキ調整がみられる。



第14図 SR1河川跡出土遺物（1）

図版 番号	登録 番号	出土 場所	層位	種別	器種	法量(cm)			外面	内面	備考	写真 図版
						口径	底径	基高				
1	B-10	SR1	*	弥生土器	盃	-	-	(5.1)	壓痕溝文（付加縫）(2例)	ナデ→くがき		B-1
2	B-19	SR1	II	弥生土器	盃	-	-	(3.6)	壓痕溝文(口縁)	あるいは壓痕同心円文 器面剥落のため不明	原体は細いまといたいとによる口縁 付加縫のように見える。	B-2
3	B-12	SR1	*	弥生土器	盃	-	-	(2.2)	壓痕溝文(口縁)複数多条(3条)	ミガキ		B-3
4	B-11	SR1	*	弥生土器	盃	-	-	(4.9)	壓痕溝文あるいは壓痕同心円文(付加 縫：蓋前段多条20例) 壺底に帶状に漆 着	ミガキ		B-4
5	B-7	SR1	*	弥生土器	鉢	-	-	(2.0)	複雑幾何工字文	横凹縫(3条)→くがき		B-5
6	B-6	SR1	*	弥生土器	鉢	-	-	(2.3)	複雑幾何工字文	ナデ		B-6
7	B-1	SR1	?	弥生土器	鉢	-	-	(2.1)	壓痕同心文(口縁内側)	横凹縫(3条)→くがき		B-7
8	B-16	SR1	II	弥生土器	鉢	-	-	(3.1)	ミガキ			B-8
9	B-2	SR1	?	弥生土器	鉢	-	-	(4.4)	口～体：平行直縫文 体上：II	ミガキ		B-9
10	B-17	SR1	II	弥生土器	鉢	-	-	(4.6)	(2.1) 体～II 近～本葉筋	ミガキ		B-10



図版 番号	登録 番号	出土 遺構	部位	種別	基準	法量(cm)			外面	内面	備考	写真 回数
						口縁	底縁	容積				
1	B-14	SR1	8	仰生土器	瓶	-	-	(4.6)	口：ヨコナメー列点刺突文 体上：3(1直前段多条：E3 条)	ミガキ		B-11
2	B-4	SR1	7	仰生土器	瓶	-	-	(4.4)	口：ミカゲー列点刺突文 体上：3(1直前段多条：E3 条)	ナゾーミガキ		B-12
3	B-12	SR1	8	仰生土器	瓶	-	-	(6.4)	横研文(行加条：E8 条)	ミガキ		B-13
4	B-15	SR1	8	仰生土器	瓶	-	-	(3.9)	行加条：E8 条	ミガキ		B-14
5	B-16	SR1	8	仰生土器	瓶	-	-	(3.7)	行加条：E8 条	ミガキ		B-15
6	B-2	SR1	7	仰生土器	瓶	-	-	(30)	植物茎回転文	ミガキ		B-16
7	B-9	SR1	8	仰生土器	深鉢	-	-	(5.0)	植物茎回転文	ミガキ	口縁：植物茎回転文	B-17
8	B-5	SR1	7	仰生土器	深鉢	-	-	(6.1)	1(1直前段多条：E3 条)	ミガキ	口縁：1(1直前段多条：E3 条)	B-18
9	B-8	SR1	8	仰生土器	深鉢	-	-	(4.7)	1(1直前段多条：E3 条)	ミガキ	口縁：1(1直前段多条：E3 条)	B-19

第15図 SR1河川跡出土遺物（2）

彫（第15図1～6）

6点認められ、口縁部片が1点、体部片が5点である。文様は列点刺突文（1）が認められ、外面には縄文や植物茎回転文による施文が認められる。

深鉢（第9図1・8）

3点認められ、いずれも口縁部片である。外面には縄文と植物茎回転文が施文され、いずれも口唇部まで施文される。

## 第4節 まとめ

### 1. 出土遺物について

第8・9次調査では一定量の弥生土器が出土した。これまで報告書の中で土器について触れられている第1次調査VII・IX区河川跡15層出土土器と第6次調査出土土器（仙台市教育委員会1996、2015）を参考に組成、地文、文様施文に着目して観察を行った。なお、調査では河川堆積土の層位ごとに遺物の取り上げを行っているが、地点や層位の上下における特徴の違いや時期差は認められないことからここでは一括して取り扱う。

#### 組成

弥生土器は537点が出土し、そのうち器種判別できたものが75点を数える。器種は壺、鉢、高杯、蓋、甕、深鉢が認められ、内訳は壺15点（20%）、鉢19点（25.3%）、高杯2点（2.6%）、蓋8点（10.6%）、甕26点（34.7%）、深鉢5点（6.7%）である。これまでの中在家南遺跡の出土資料からは、おおよそ甕が4割、壺が2割、高杯、鉢、蓋が1割前後を占め、その他の器種が加わるという組成の傾向をなす。破片資料が多いため、単純な比較はできないが、第8・9次調査出土土器の組成の傾向としてはこれまでの調査と比べ類似しているものの、鉢の割合が多く、高杯の割合が低い。

#### 地文

地文には回転繩文、植物茎回転文（偽繩文）をもつ個体が多い。その他としてはミガキ・ナデ調整による無文のものやハケメ調整のものが少量含まれる。1cm大以上の土器片の地文についてみていくと、破片個体数461点中、回転繩文が240点（44.7%）、植物茎回転文が97点（18.1%）、その他や不明のものが200点（37.2%）である。回転繩文と植物茎回転文を合わせた337点に対する植物茎の割合はおよそ28.8%となり繩文施文が優位である。第1次調査の報告書による植物茎回転文の比率は18.7%、第6次調査では26.3%であり、第8・9次調査の比率がやや高いもの似た傾向を示している。

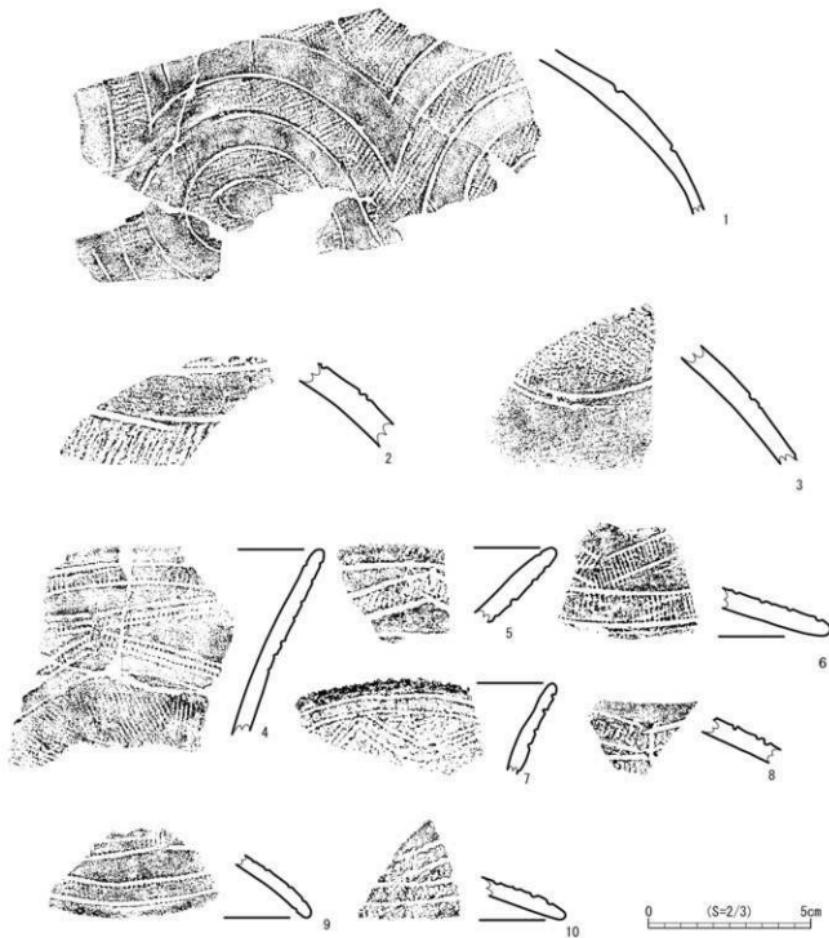
また、回転繩文の原体で使用されるものは3本の1段燃紐を同時に絡めた直前段多条（R3条）や2本の1段燃紐を撚り合わせた軸に1本の1段燃紐を巻き絡めた付加条（LR+R）が目立ち、3条単位で同一条が現れるものが多用される【註1】。第1次調査では3本の1段燃紐で撚られた直前段多条が繩文全体の52%を占めており、多用されていることが指摘されている。また、第6次調査でも同様の傾向が示されている。

#### 文様施文

確認できる文様は変形工字文、錫形文、四角文、幾何学文、同心円文、連弧文、満文があり、文様は1本引きによる2本の平行する沈線により描出され、磨消繩文が用いられている。器種ごとの傾向をみると壺は同心円文ないし満文、鉢・高杯・蓋は変形工字文が主体をなす。

各個体の沈線描出に着目すると、第16図1～3の満文ないし同心円文や第16図4～10の変形工字文のように、構図の交点を描く沈線同士がしっかりと接続しておらず、離れたり、はみ出しているものが目立つ。また、地文部は磨消繩文により埋められるが、沈線を挟んだ地文部分と無文部分が隣り合わず、沈線を挟んで地文部分が連続する個体が一定量認められる（第16図10）。上記の傾向は、弥生時代中期中葉中段階の中在家南式（石川2005、斎野2008）とされる土器群にみられる特徴であり、沈線間がしっかりと接続し、地文・無文部が隣り合うという原則をしっかりと踏襲する中期中葉古段階の樹形式からの退化傾向とされる。

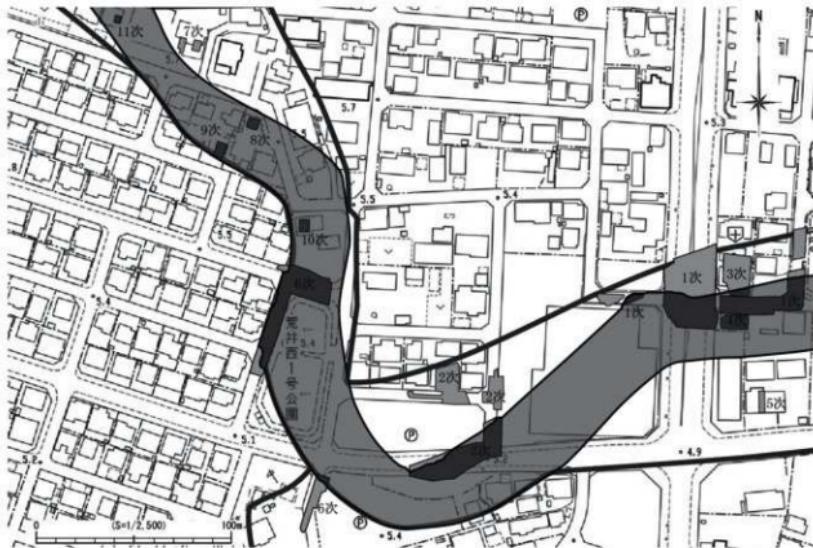
以上のことから、各個体の器形や法量など不明な点も多いが、今回の調査で出土した弥生土器は組成・地文・文様施文について、これまで中在家南遺跡の出土土器と共通する特徴が多く、弥生時代中期中葉中段階の中在家南式期に位置づけられる。



第16図　弥生土器集成図

## 2. 河川跡について

調査ではそれぞれ河川跡 (SRI) を検出した。これらの河川跡は位置関係から同一の遺構であり、さらにこれまでの調査で確認されている河川跡の延長部分と考えられる。既往調査や航空写真から総合すると河川跡は調査区近辺を北西—南東方向に走っていると想定される(第17図)。また、第8・9次調査区の南方約50mに位置する、第6次調査北区で確認された河川跡は上幅が18m以上を測り、地表面から2.8mの深さで河床面が検出されている。8次調査で幅3m以上、深さ1.2m、9次調査で幅4.5m以上、深さ1.2m以上の規模であることが確認されたが、調査区が狭小であることから、上端は確認されず、第8次調査で河床面が、第9次調査で一部壁面が確認されたの



第17図 河川跡推定図

みである。堆積土の全体的な傾斜から第8次調査区は河川跡の北東岸側に位置し、第9次調査区は南岸側に位置していると推定される。

第8・9次調査と第6次調査における基本層・河川跡堆積土の対応関係は以下の通りと考えられる。

第8次調査	第9次調査	第6次調査	備考
基本層I層	基本層I	1・2	表土層
基本層II層	基本層II	3	
	1	4・5	中世
	2	6	平安
1~5		7~9	平安~古墳
	3~6	10~11	古墳前期
		12	古墳~弥生後
6~8	7~11	13~15	弥生中
基本層III層	基本層III層	16~17	基盤層

今回の調査では弥生時代以外の遺物はほとんど出土していないため、古墳時代以降の堆積土について対応させることは困難であるが、第8・9次調査の基本層II層は下層に含まれる灰白色シルトを耕作により巻き上げており、その特徴から既往調査で確認されている埋没河川堆積土の中世頃の水田耕作土に対応するものと考えられる。また、第6次調査と比べ、特に下層において層厚が薄いことが確認された。これは想定される河川跡の流路が、今回の調査地点近辺で屈曲していることの影響、あるいは、今回の調査地点が河川の岸に近く、比較的浅い箇所に位置している可能性がある。

### 3. まとめ

第8・9次調査は中在家南遺跡の北部に位置し、2つの調査区は東西方向に隣接している。調査成果は以下のよう要約される。

(1) 検出された河川跡は堆積土の類似性や位置関係から、既往調査で確認されている河川跡と同一のものと考えられる。両調査区では河川跡の上端は検出されなかつたが、これまでの調査成果から、北西—南東方向に走る河川跡の第8次調査区が北東岸側、第9次調査区が南岸側に位置すると考えられる。

(2) 第8次調査のSR1河川跡堆積土6～8層、第9次調査のSR1河川跡堆積土7～11層は、弥生時代中期中葉の堆積層と考えられる。堆積土中からは一定量の弥生土器が出土しており、その特徴から弥生時代中期中葉の中在家南式期に位置づけられる。

#### 【註1】

観察表の記載にある「LR 直前段多条 : R3 条」は、中在家南遺跡第1次調査の報文中でいう  $\ell$  (rrr) = L [RRR]、第6次調査報文中的 L3R のことで山内清男の表記でいうと 2段 LR 繩の直前段 R 繩が 3本という多条を表している（山内 1979）。また「付加条 LR+R」は第1次調査の L [RR] + R のことを指す。

#### 参考文献

- 石川日出志 2005 「仙台平野における弥生中期土器編年の再検討」『関東・東北弥生土器と北海道縄繩文土器の広域編年』
- 斎野裕彦 2008 「仙台平野」『弥生時代の考古学8 集落からよむ社会』同成社
- 仙台市教育委員会 1996 『中在家南遺跡他』仙台市文化財調査報告書第 213 集
- 仙台市教育委員会 2000 『高田B遺跡』仙台市文化財調査報告書第 242 集
- 仙台市教育委員会 2002 『中在家南遺跡（第3・4次）押口遺跡（第3次）発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 255 集
- 仙台市教育委員会 2012 『中在家南遺跡第5次』『仙台平野の遺跡群 22』仙台市文化財調査報告書第 404 集
- 仙台市教育委員会 2015 『中在家南遺跡第6次調査ほか』仙台市文化財調査報告書第 434 集
- 仙台市教育委員会 2016 『中在家南遺跡第7次』『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告 II』仙台市文化財調査報告書第 448 集
- 仙台市教育委員会 2017 『中在家南遺跡第10次』『仙台平野の遺跡群 28』仙台市文化財調査報告書第 469 集
- 山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

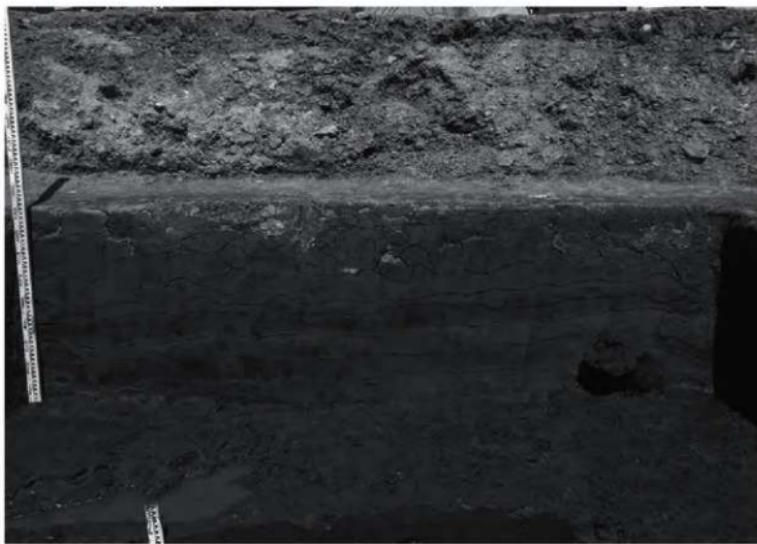


1. 調査区全景（南から）



2. 弥生土器出土状況（南から）

写真図版 1 中在家南遺跡第8次調査（1）



1. SR1 河川跡(調査区北壁)土層断面(1)(南から)

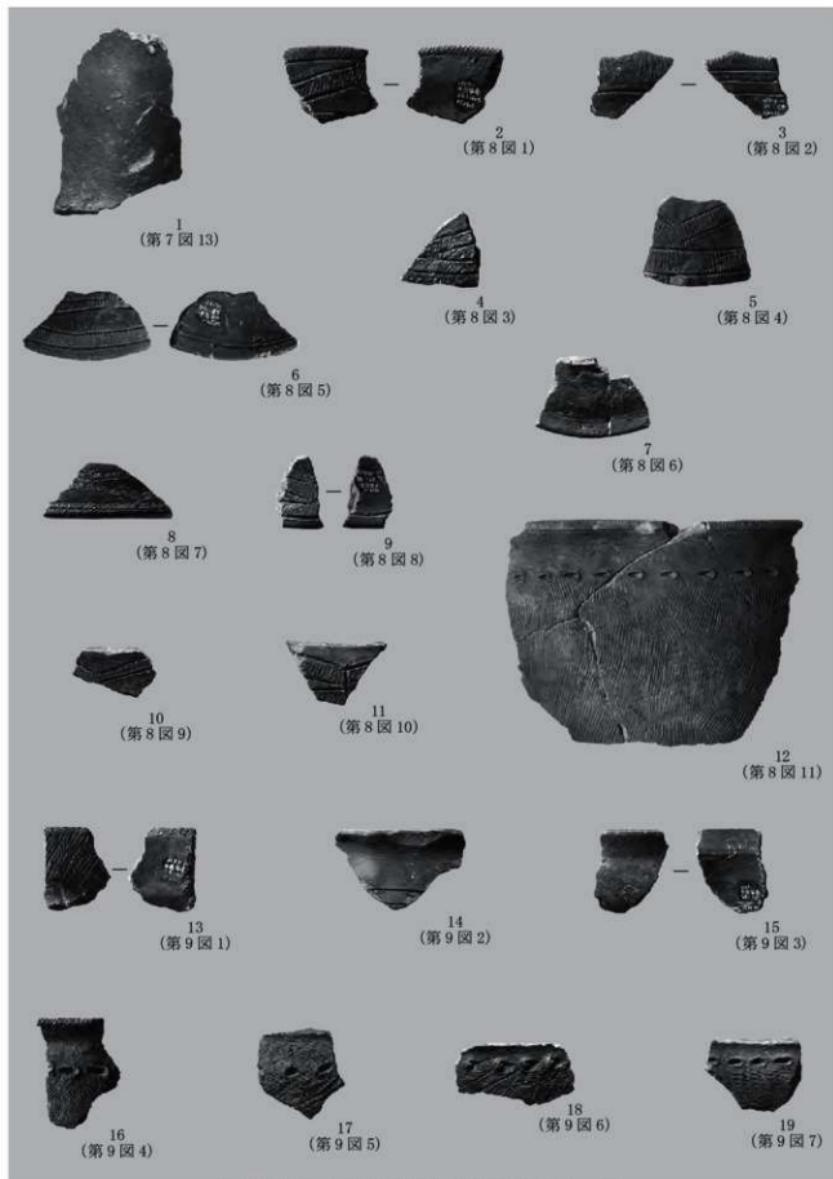


2. SR1 河川跡(調査区北壁)土層断面(2)(南から)

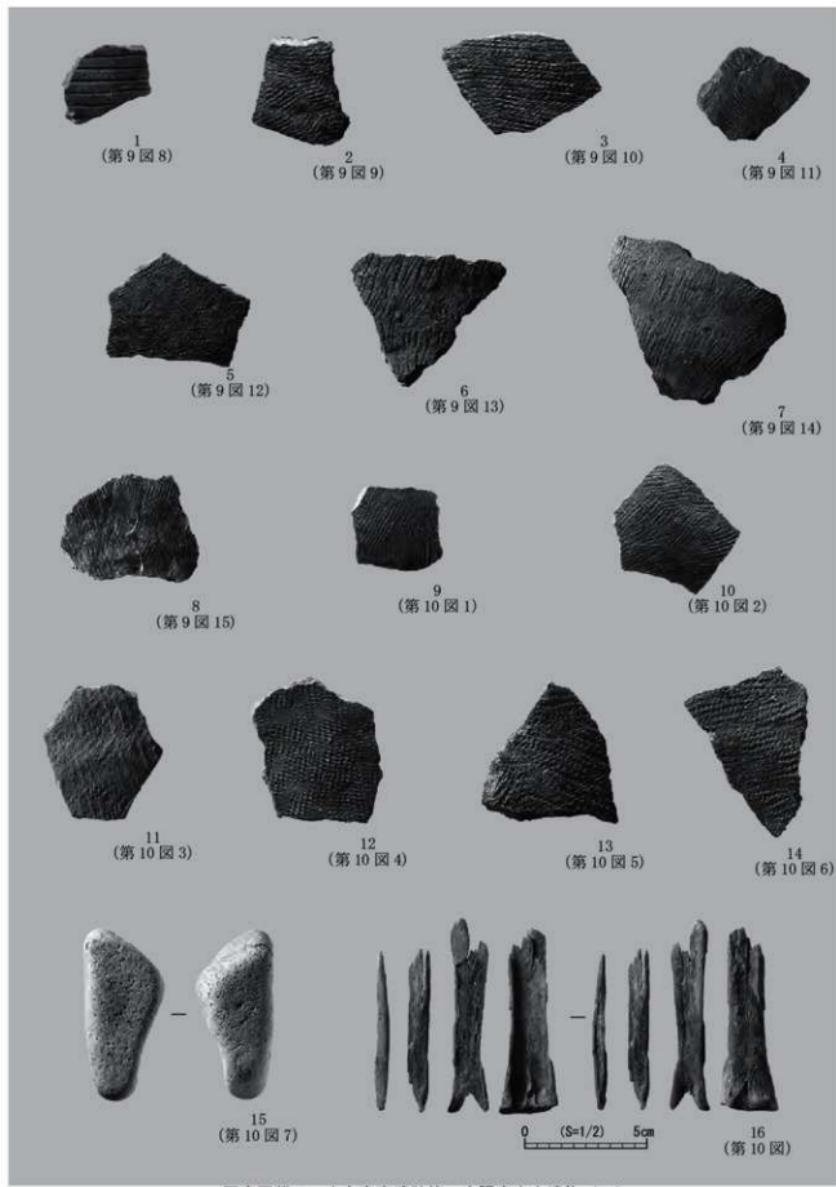
写真図版2 中在家南遺跡第8次調査(2)



写真図版3 中在家南遺跡第8次調査出土遺物（1）



写真図版4 中在家南遺跡第8次調査出土遺物（2）



写真図版5 中在家南遺跡第8次調査出土遺物（3）



1. 調査区全景（北から）

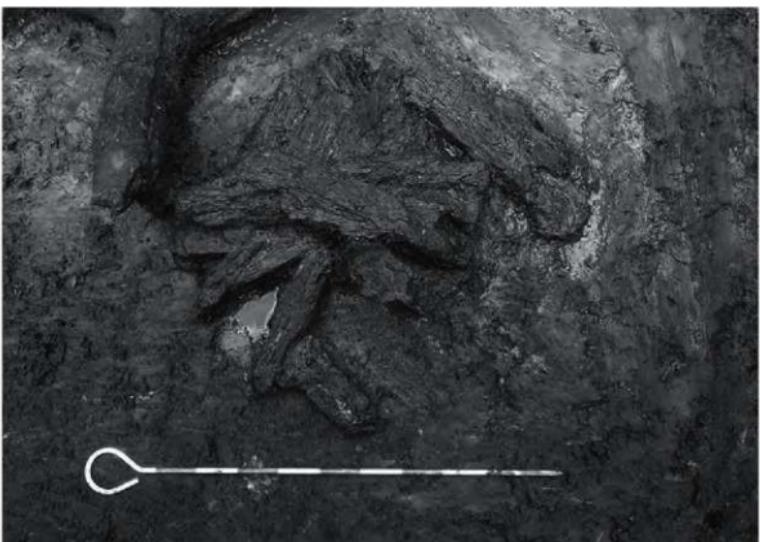


2. 調査区南壁断面（北から）

写真図版 6 中在家南遺跡第9次調査（1）

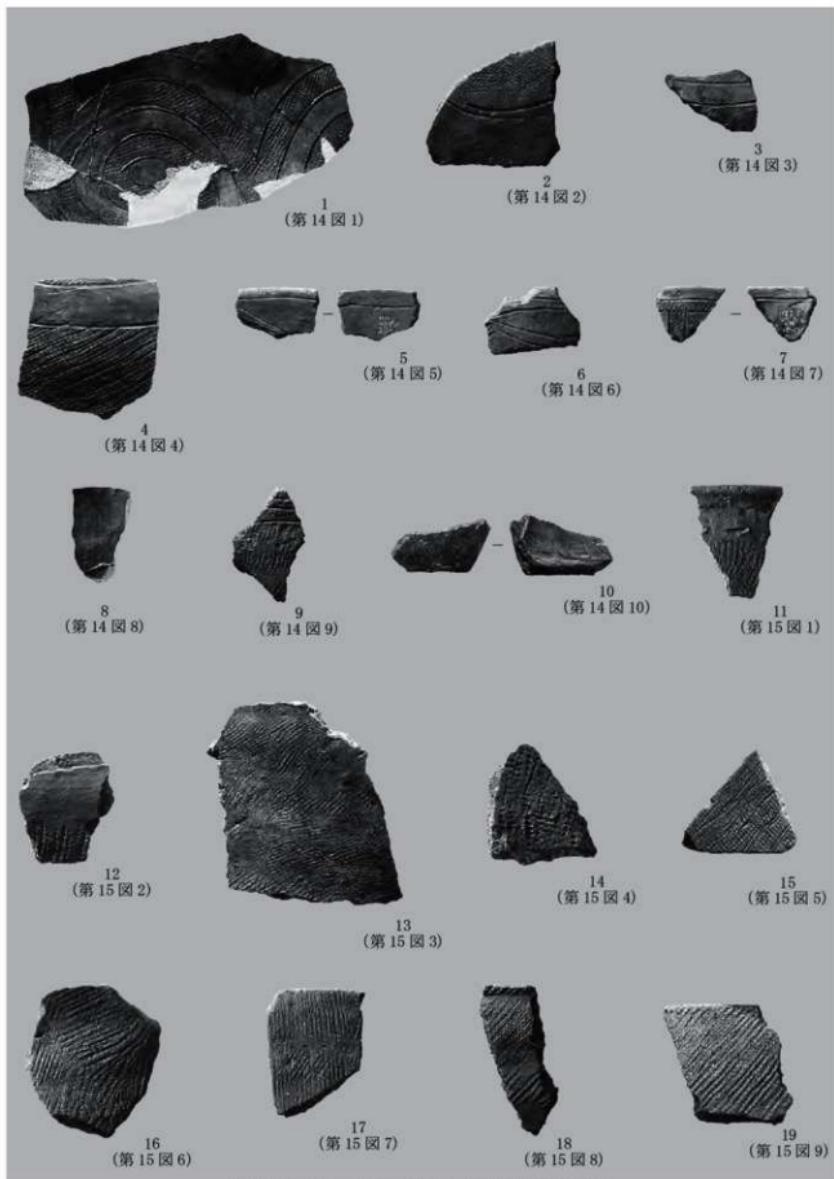


1. SR1 河川跡（調査区西壁）土層断面（東から）



2. 自然木・樹皮集積状況（東から）

写真図版 7 中在家南遺跡第9次調査（2）



写真図版8 中在家南遺跡第9次調査出土遺物

## 第3章 総 括

「震災復興民間文化財発掘調査助成事業」は、仙台市が作成した復興交付金事業計画に基づき、復興庁より東日本大震災復興交付金の交付を受け、平成24年3月から開始された。仙台市域における震災で特に大きな被害を受けた個人専用住宅あるいは中小企業等による共同住宅等の再建事業に伴って必要とされる埋蔵文化財の事前発掘調査を対象として行った。

以下、本事業の実績と調査成果について触れ、総括としたい。

### 1. 事業実績

平成23年度は個人専用住宅に伴う調査を2件実施した。単費を除く事業費（決算額）は289,020円（補助金額216,765円）である。

平成24年度は個人専用住宅に伴う調査を31件、中小企業等に伴う調査を7件の計38件を実施した。うち21件で本発掘調査を実施し、平成23～24年度前半に実施した本発掘調査結果を掲載した『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告書I』を刊行した。決算額は17,008,794円（補助金額12,756,596円）である。

平成25年度は個人専用住宅に伴う調査を13件、中小企業等に伴う調査を1件の計14件を実施した。うち7件で本発掘調査を実施した。決算額は6,773,893円（補助金額5,080,420円）である。

平成26年度は個人専用住宅に伴う調査を8件実施した。うち3件で本発掘調査を実施した。決算額は4,626,170円（補助金額3,469,628円）である。

平成27年度は個人専用住宅に伴う調査を5件実施した。うち2件で本発掘調査を実施した。また、平成24年度後半～26年度に実施した本発掘調査結果を掲載した『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告書II』を刊行した。決算額は9,006,195円（補助金額6,754,646円）である。

平成28年度は個人専用住宅に伴う調査を4件実施した。また、平成24年度に実施した押口遺跡出土木製品の保存処理および樹種同定業務委託を行った。決算額は4,395,824円（補助金額3,296,868円）である。

平成29年度は個人専用住宅に伴う調査を1件実施した。また、平成27年度に蒲生北部被災市街地復興土地区画整理事業に伴い実施した蒲生御蔵跡および貞山堀の試掘調査（調査は蒲生北部整備課予算にて実施）出土木筒の保存処理業務委託を行った。決算額は4,490,788円（補助金額3,368,091円）である。

平成30年度は本事業により実施した発掘調査は無かったが、前年度に引き続き蒲生御蔵跡および貞山堀出土木製品の保存処理業務委託を行った。決算額は4,400,410円（補助金額3,300,308円）である。

平成31（令和元）年度は個人専用住宅に伴う調査を1件実施した。また、前年度に引き続き蒲生御蔵跡出土木筒の保存処理業務委託を行った。決算額は6,805,173円（補助金額5,103,880円）である。

令和2年度は個人専用住宅に伴う調査を1件実施した。また、前年度に引き続き蒲生御蔵跡の出土木筒の保存処理業務委託を行った。さらに、平成27～令和2年度に実施した本発掘調査結果を掲載した『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告書III』（本書）を刊行した。決算額は5,317,100円（補助金額3,987,825円）である。

上記の他、出土遺物の整理作業や報告書作成作業等の室内作業を各年度で実施した。

### 2. 調査成果

本事業に伴う発掘調査は、平成23年度から令和2年度にかけて29遺跡、74箇所の調査地点で実施した（第18図）。うち本発掘調査を実施したのは15遺跡、34箇所の調査地点で、本書を含め3冊の発掘調査報告書を刊行した。調

## 第2節 調査成果

査では縄文時代から近世の遺構、遺物が確認された。発掘調査の概要については表6、7の通りである。発掘調査の内容については各報告書を参照にされたい（仙台市教育委員会 2013, 2016）。

以上のように本事業に係る発掘調査の実施件数は開始直後の平成24年度にピークを迎え、その後の件数は徐々に減少傾向にある。平成29年度以降は実施件数が1件ないし0件であり、本事業においては一区切りがついた時期といえる。対象となった計画には被災した場所での再建も多く、地域における復興にとって、当事業は大きな役割を果たしたといえよう。

東日本大震災より10年が経過するが、個人住宅等の建築に伴う発掘届や発掘調査の件数は震災前を上回る状況が継続している。今後も復旧、復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護と啓発に努めていきたい。

### 参考文献

- 仙台市教育委員会 2013『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅰ』仙台市文化財調査報告書第416集  
仙台市教育委員会 2016『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第448集

表6 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧（1）

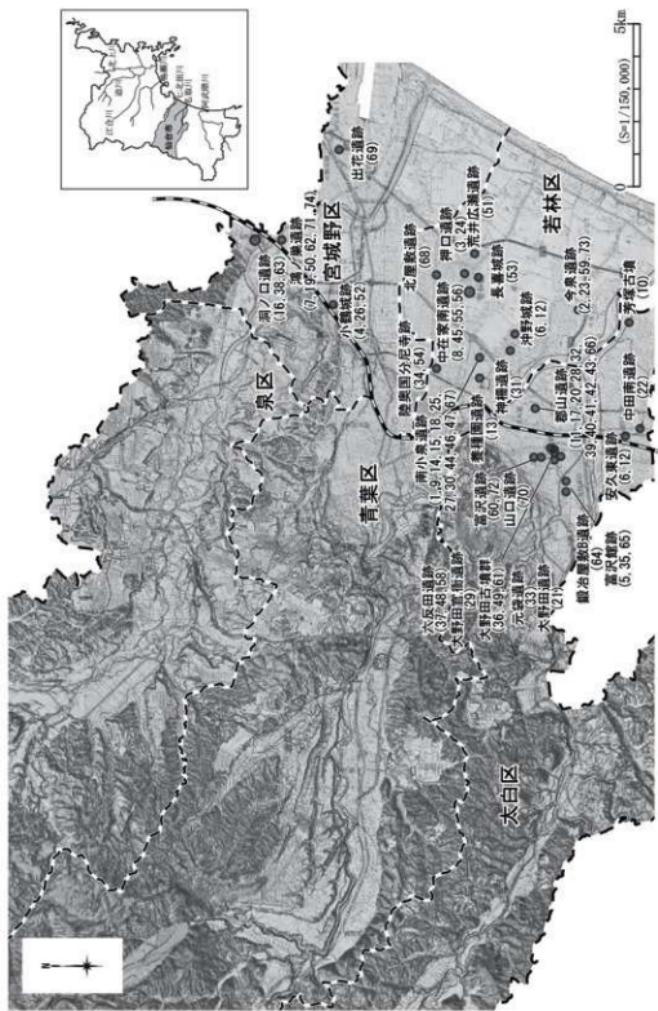
番号	道筋名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構、遺物	届出等	報告書
1	唐小舟遺跡	若林区古城三丁目	79.3 m <sup>2</sup>	21.0 m <sup>2</sup>	2012年3月12日	土坑1基、遺跡1条、ピット1基、土師器	023 106-90	—
2	今泉遺跡	若林区今泉二丁目	90.4 m <sup>2</sup>	24.6 m <sup>2</sup>	2012年3月12日	土坑2基、ピット23基、土師器	023 106-284	—
3	河口遺跡	若林区荒井	113.9 m <sup>2</sup>	40.5 m <sup>2</sup>	2012年4月24日	遺構、遺物なし	023 106-802	—
4	小堀城跡	宮城野区新堀三丁目	91.0 m <sup>2</sup>	11.7 m <sup>2</sup>	2012年4月25日	遺跡1条、土師器、近世陶磁器	024 122-19	I (9次)
5	喜茂祖跡	太白区富沢	74.1 m <sup>2</sup>	16.6 m <sup>2</sup>	2012年5月28日～30日	遺跡1条、土坑1基、柱穴1基、須恵器	024 122-86	I (13次)
6	仲野城跡	若林区沖野七丁目	96.5 m <sup>2</sup>	31.7 m <sup>2</sup>	2012年6月4日～6日	遺跡3条、石器品	024 122-15	I (13次)
7	酒ノ里遺跡	宮城野区岩切	37.0 m <sup>2</sup>	16.1 m <sup>2</sup>	2012年6月4日～6日	占墳へ代：遺跡3条、土坑2基、性格不明	024 122-68	I (15次)
8	中住家南遺跡	若林区荒井	133.2 m <sup>2</sup>	25.0 m <sup>2</sup>	2012年6月11日	遺跡1条	024 122-29	—
9	唐小舟遺跡	若林区見廻一丁目	75.8 m <sup>2</sup>	27.6 m <sup>2</sup>	2012年6月11日	遺構、遺物なし	024 122-70	—
10	芳塚古墳	太白区久那丸	121.0 m <sup>2</sup>	38.5 m <sup>2</sup>	2012年6月13日～14日	遺跡2条、ピット2基	024 122-65	—
11	郡山遺跡	太白区郡山三丁目	48.8 m <sup>2</sup>	6.3 m <sup>2</sup>	2012年6月27日	遺構なし、土師器	022 122-100	I (224次)
12	沖野城跡	若林区沖野二丁目	74.4 m <sup>2</sup>	24.6 m <sup>2</sup>	2012年7月9日	遺構、遺物なし	024 122-106	—
13	喜種園遺跡	若林区南小堀二丁目	60.0 m <sup>2</sup>	15.0 m <sup>2</sup>	2012年7月18日	遺跡1条	022 122-113	I (9次)
14	唐小舟遺跡	若林区南小堀二丁目	100.3 m <sup>2</sup>	25.5 m <sup>2</sup>	2012年7月26日～30日	(古墳へ代：遺跡1条、土坑1基) (近代へ代：土坑2基)	024 122-61	I (73次)
15	唐小舟遺跡	若林区南小堀二丁目	145.3 m <sup>2</sup>	36.3 m <sup>2</sup>	2012年7月31日～8日	(平成：磐穴式住跡1軒)、(古墳へ平代：土 坑9.2基、柱穴2基、性格不明遺構1基)	024 122-138	I (74次)
16	河口遺跡	宮城野区岩切	50.3 m <sup>2</sup>	25.8 m <sup>2</sup>	2012年9月3日～5日	遺跡2条、土坑1基、ピット3基、土師器	024 122-122	I (20次)
17	郡山遺跡	太白区八本柳二丁目	59.5 m <sup>2</sup>	14.5 m <sup>2</sup>	2012年9月6日～10日	遺跡1条、陶器	024 122-160	I (230次)
18	唐小舟遺跡	若林区見廻一丁目	112.6 m <sup>2</sup>	28.2 m <sup>2</sup>	2012年9月10日～12日	遺跡1条、土坑2基、ピット3基	024 122-192	—
19	酒ノ里遺跡	宮城野区岩切	66.0 m <sup>2</sup>	16.0 m <sup>2</sup>	2012年9月11日	遺跡2条、ピット1基、 河口式土師器、ロクロ土師器、瓦瓦器	024 122-117	I (16次)
20	郡山遺跡	太白区郡山二丁目	89.3 m <sup>2</sup>	32.3 m <sup>2</sup>	2012年9月20日～10月5日	(1室空街：木札1枚)、(遺跡6条、土坑2 基、柱穴5基、ピット4基、土師器、板瓦器、 石器)	024 122-179	I (332次)
21	大野田遺跡	太白区大野田	156.7 m <sup>2</sup>	16.3 m <sup>2</sup>	2012年10月9日～12日	遺跡1条、ピット6基	024 122-166	—
22	中田南遺跡	太白区中田七丁目	90.8 m <sup>2</sup>	37.3 m <sup>2</sup>	2012年10月9日～19日	土坑5基、性格不明遺構3基	024 122-213	—
23	今泉遺跡	若林区今泉二丁目	69.0 m <sup>2</sup>	24.1 m <sup>2</sup>	2012年10月30日～31日	遺跡2条	024 122-229	II (10次)
24	河口遺跡	若林区荒井	69.6 m <sup>2</sup>	35.0 m <sup>2</sup>	2012年10月31日～11月16日	先史土坑、土師器（古墳前期）、本製品（唐 鏡、建物部材、板）	024 122-228	II (4次)
25	唐小舟遺跡	若林区見廻二丁目	79.0 m <sup>2</sup>	24.0 m <sup>2</sup>	2012年11月5日	遺跡1条、性格不明遺構1基、ピット2基	024 122-226	—
26	小堀城跡	宮城野区新堀三丁目	124.3 m <sup>2</sup>	30.1 m <sup>2</sup>	2012年11月26日	ピット8基	024 122-264	—
27	唐小舟遺跡	若林区見廻一丁目	91.9 m <sup>2</sup>	30.4 m <sup>2</sup>	2012年12月3日	ピット1基、遺跡1条、土師器	024 122-259	—
28	郡山遺跡	太白区郡山2丁目	79.6 m <sup>2</sup>	18.0 m <sup>2</sup>	2012年12月3日	(平成以降：土坑1基)	024 122-278	II (235次)
29	大野田官衙跡	太白区大野田字前井	85.0 m <sup>2</sup>	8.0 m <sup>2</sup>	2012年12月10日～13日	(邵良：唐鏡1枚)、(定作：唐鏡1枚)、 ロクロ土師器、瓦瓦器、金銀製品	024 122-289	II (19次)
30	唐小舟遺跡	若林区南小堀二丁目	61.5 m <sup>2</sup>	14.7 m <sup>2</sup>	2013年1月16日	遺跡2条、土坑1基、ピット2基	024 122-312	—
31	沖野城跡	若林区沖野二丁目	88.6 m <sup>2</sup>	17.0 m <sup>2</sup>	2013年1月23日	遺跡1条	024 122-334	—
32	郡山遺跡	太白区郡山六丁目	68.5 m <sup>2</sup>	19.6 m <sup>2</sup>	2013年2月4日～7日	遺跡2条、土坑5基、柱穴1基、非ロクロ土師器、 板瓦器	024 122-369	II (237次)

表6 個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧（2）

図No.	遺跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構、遺物	届出等No.	報告書
33	元貨跡	太白区大野田字元賀	84.0 m <sup>2</sup>	40.0 m <sup>2</sup>	2013年3月7日～25日	(古墳：聖穴式石室1軒)、(平安：聖穴式石室1軒)、(古代以降：土坑1基、小塚式石室2群(5基))、鐵製品、金屬製品	024 122-372	II (9次)
34	掛廻園分尼寺	若林区白森町	187.9 m <sup>2</sup>	85.5 m <sup>2</sup>	2013年4月8日～18日	ビット3基、平瓦片、土師器片	024 122-364	—
35	瀬古船跡	太白区富沢字船	130.3 m <sup>2</sup>	9.2 m <sup>2</sup>	2013年4月15日	遺構、遺物なし	024 122-361	—
36	大野田古墳群	太白区大野田字千利田	76.1 m <sup>2</sup>	16.6 m <sup>2</sup>	2013年4月17日	唐跡16条(小僧式盃構群2群)、ビット1基	024 122-339	—
37	六反田遺跡	太白区大野田字六反田	82.0 m <sup>2</sup>	15.0 m <sup>2</sup>	2013年5月8日	唐跡(小僧式盃構群)、赤土器	025 123-22	—
38	洞ノ口遺跡	若林区西岩安字洞ノ口	97.7 m <sup>2</sup>	48.2 m <sup>2</sup>	2013年5月21日	(中世：唐跡5条、土坑8基、ビット19基)、土師器、須恵器、中世陶器、青磁片、石製品	025 123-74	II (22次)
39	郡山遺跡	太白区郡山2丁目	79.5 m <sup>2</sup>	38.9 m <sup>2</sup>	2013年11月13日～28日	(古墳：聖穴式石室6軒、性格不明遺構2基、ビット3軒)、土師器、須恵器、不製品、土製品、金属製品	025 123-161	II (245次)
40	郡山遺跡	太白区郡山2丁目	63.3 m <sup>2</sup>	62.5 m <sup>2</sup>	2013年11月28日～12月13日	(日式官衙：材木列1条、瓶状柱建物跡1棟)、(中世以降：唐跡2条)、土坑1基、ビット52基	025 123-320	II (246次)
41	郡山遺跡	太白区郡山東1丁目	58.0 m <sup>2</sup>	46.9 m <sup>2</sup>	2013年12月11日～12月18日	(平安以降：唐跡1条、土坑1基、ビット11基)、土師器、須恵器、瓦	025 123-323	II (247次)
42	西山遺跡	太白区西山3丁目	253.1 m <sup>2</sup>	15.0 m <sup>2</sup>	2013年12月17日～18日	遺構なし、土師器	025 123-336	II (248次)
43	西山遺跡	太白区西山5丁目	72.9 m <sup>2</sup>	15.0 m <sup>2</sup>	2014年2月18日～19日	遺構なし、土師器、須恵器、中世陶器	025 123-338	II (250次)
44	南小泉遺跡	若林区蓬屋2丁目	108.5 m <sup>2</sup>	16.0 m <sup>2</sup>	2014年2月24日	土坑1基、ビット1基	025 123-394	—
45	中在家南遺跡	若林区蓬屋町字南	109.3 m <sup>2</sup>	80.2 m <sup>2</sup>	2014年3月12日～26日	(弥生：土坑1基、ビット1基)、(平安：土器、瓦、土師器、石器)、板状石器、石磚(等)	026 123-363	II (7次)
46	南小泉遺跡	若林区南小2丁目	319.8 m <sup>2</sup>	26.0 m <sup>2</sup>	2014年3月19日～25日	唐跡、ビット、土師器	025 123-400	—
47	南小泉遺跡	若林区蓬屋2丁目	68.1 m <sup>2</sup>	21.7 m <sup>2</sup>	2014年4月10日～18日	古墳中岡(南小泉)：聖穴式石室1軒、須恵器1基、土器2基、土製品、石器	025 123-406	II (26次)
48	六反田遺跡	太白区大野田字穴竹松	91.5 m <sup>2</sup>	28.0 m <sup>2</sup>	2014年5月8日～16日	ビット5基、遺物なし	026 106-24	—
49	大野田遺跡	太白区大野田字竹松	92.5 m <sup>2</sup>	17.7 m <sup>2</sup>	2014年6月16日	ビット2基、遺物なし	026 106-104	—
50	浦ノ里遺跡	宮城町区若切字三北	81.6 m <sup>2</sup>	16.0 m <sup>2</sup>	2014年7月7日～9日	(中世：唐跡1条)、土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器	026 106-66	II (9次)
51	荒井北遺跡	若林区荒井字北	64.6 m <sup>2</sup>	14.9 m <sup>2</sup>	2015年7月14日～15日	附棺墓、遺物なし	026 106-105	—
52	小鶴城跡	宮城町区新町3丁目	148.7 m <sup>2</sup>	27.2 m <sup>2</sup>	2014年11月6日～7日	唐跡1条、ビット14基、土師器、須恵器、平安陶器、土器、削片	026 106-284	II (10次)
53	長者城跡	若林区長者町字馬鹿	128.7 m <sup>2</sup>	20.0 m <sup>2</sup>	2014年8月25日	遺構、遺物なし	026 106-161	—
54	掛廻園分尼寺跡	若林区白森	103.1 m <sup>2</sup>	16.0 m <sup>2</sup>	2016年11月19日	遺構、遺物なし	026 106-255	—
55	中在家南遺跡	若林区荒井西区古墳整理地	65.3 m <sup>2</sup>	25.0 m <sup>2</sup>	2015年4月6日～24日	河川跡、生土器、石器	027 101-909	III (5次)
56	中在家南遺跡	若林区荒井西区古墳整理地	83.8 m <sup>2</sup>	36.0 m <sup>2</sup>	2015年5月18日～28日	河川跡、生土器	027 101-041	III (9次)
57	久久東遺跡	太白区西中田4丁目	153.8 m <sup>2</sup>	12.0 m <sup>2</sup>	2015年10月19日	唐跡、遺物なし	027 101-328	—
58	六反田遺跡	太白区大野田字五反田	50.6 m <sup>2</sup>	12.0 m <sup>2</sup>	2015年12月2日	唐跡(小僧式盃構群)、ビット	027 101-476	—
59	今泉遺跡	若林区今泉2丁目	64.5 m <sup>2</sup>	12.0 m <sup>2</sup>	2016年2月1日	河川跡?	027 101-491	—
60	家尻遺跡	太白区長町字3丁目	202.7 m <sup>2</sup>	24.2 m <sup>2</sup>	2016年5月30日～31日	遺構なし、遺物なし	028 101-041	—
61	大野田古墳群	太白区大野田5丁目	94.0 m <sup>2</sup>	16.0 m <sup>2</sup>	2016年9月26日	唐跡(小僧式盃構群)、ビット、土師器	028 101-368	—
62	浦ノ里遺跡	宮城町区若切字浦東	75.5 m <sup>2</sup>	15.0 m <sup>2</sup>	2017年2月20日	遺構、遺物なし	028 101-084	—
63	洞ノ口遺跡	若林区若切字洞ノ口	44.0 m <sup>2</sup>	6.3 m <sup>2</sup>	2017年3月15日	井戸跡	028 101-769	—
64	泊原尾山B遺跡	太白区富沢西区泊原尾山	67.1 m <sup>2</sup>	12.0 m <sup>2</sup>	2017年12月14日	遺構、遺物なし	029 102-454	—
65	瀬沢船跡	太白区富沢西区瀬沢	70.2 m <sup>2</sup>	10.0 m <sup>2</sup>	2019年8月20日	遺構、遺物なし	031 101-152	—
66	郡山遺跡	太白区郡山2丁目	154.1 m <sup>2</sup>	27.9 m <sup>2</sup>	2021年3月9日～10日	遺構、遺物なし	022 101-802	—

表7 中小企業等補助事業に伴う発掘調査一覧

図No.	遺跡名	所在地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構、遺物	届出等場	報告書
67	南小泉遺跡	若林区蓬屋2丁目	117.0 m <sup>2</sup>	29.4 m <sup>2</sup>	2012年6月20日～29日	(古墳中期：引田跡)：聖穴式石室2軒)、(六反田式石室1軒)、上坑1基等、生土器、土器、須恵器、削片	024 129-1	I (72次)
68	北湖敷設跡	若林区六丁目の中町	244.8 m <sup>2</sup>	146.4 m <sup>2</sup>	2012年7月30日～8月29日	(古代以降：唐跡2条、土坑1基)、(後世以降：唐跡7条、土坑3基、性格不明遺構1基、ビット10基)、土師器、須恵器、近世陶器、瓦	024 129-7	I (5次)
69	出花窓跡	宮城町区出花二丁目	870.2 m <sup>2</sup>	75.9 m <sup>2</sup>	2012年11月19日～21日	唐跡1条	024 129-33	—
70	山口遺跡	太白区東泉二丁目	558.0 m <sup>2</sup>	64.0 m <sup>2</sup>	2013年1月15日～2月28日	(古代以降：本田跡1面)、土師器、須恵器	024 129-46	II (19次)
71	浦ノ里遺跡	宮城町区若切	113.6 m <sup>2</sup>	26.6 m <sup>2</sup>	2013年1月21日	ビット2基	024 129-41	—
72	浜坂遺跡	太白区浜坂2丁目	536.3 m <sup>2</sup>	112.3 m <sup>2</sup>	2013年3月4日～12日	河川跡、本田跡	024 122-316	—
73	今免遺跡	若林区今免2丁目	170.0 m <sup>2</sup>	66.4 m <sup>2</sup>	2013年3月25日～27日	(中世～近世：唐跡4条)、唐跡1条、生土器、土器、須恵器、瓦	024 129-66	II (11次)
74	浦ノ里遺跡	宮城町区若切字浦東	72.6 m <sup>2</sup>	20.0 m <sup>2</sup>	2013年5月13日	土師器片	025 129-77	—



第18図 震災復興交付金調査地點位置図（国土地理院地図を一部改変）

報告書抄録

---

---

仙台市文化財調査報告書第 489 集  
**仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅲ**

平成 27～令和 2 年度　震災復興民間文化財  
発掘調査助成事業に伴う発掘調査報告書

2021 年 3 月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区上杉 1 丁目 5-12

仙台市役所上杉分庁舎 10 階

文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

仙台市宮城野区苦竹三丁目 1-14

TEL 022 (231) 2245㈹

---

---







